中学歴史プリント（過去問類似）
戦国時代

名前 ＿＿＿＿＿＿＿＿

得点 ／8

問1 日本の歴史における主要な出来事を時系列で整理したとき、鎌倉幕府の成立、室町幕府の成立、応仁の乱に続いて、16世紀に発生した出来事としてふさわしいものはどれですか。（2020年　京都公立入試　類似）

1. 種子島への鉄砲の伝来　**2.** 御成敗式目の制定　**3.** 元寇による博多への侵攻　**4.** 日明貿易（勘合貿易）の開始

問2 1543年、九州南方の種子島に漂着した船に乗っていた人々によって、日本に初めて鉄砲が伝えられました。このとき、日本に鉄砲を伝えたのはどこの国の人々ですか。（2014年　沖縄公立入試　類似）

1. ポルトガル人　**2.** スペイン人　**3.** オランダ人　**4.** イギリス人

問3 戦国大名が定めた独自の法律の中には、「喧嘩（けんか）両成敗」のように、家臣同士の私的な争いを厳しく禁じる規定が多く見られます。このような厳しい法を大名が制定した背景として、最も適切な説明はどれですか。（2021年　岡山公立入試　類似）

1. 家臣たちの実力を認め、それぞれの領地での自由な行動を促すため　**2.** 家臣同士の私的な紛争を抑え、領国内の団結と大名による統治権を強めるため　**3.** 室町幕府が定めた全国一律の裁判基準を、各地の家臣に徹底させるため　**4.** 天皇から授けられた裁判権を行使して、公家社会の秩序を維持するため

問4 室町時代の中期、浄土真宗（一向宗）を信仰する地侍や農民たちが強く団結し、加賀国（現在の石川県）の守護大名である富樫氏を倒す出来事が起こりました。この蜂起によって実現した、その後約100年にわたる地域の状況を説明したものとして、最も適切なものはどれですか。（2026年　高知公立入試　類似）

1. 門徒たちが独自の政治体制を築き、「百姓の持ちたる国」と呼ばれるような自治を実現した。　**2.** 幕府に対して借金の帳消しを求める徳政一揆へと発展し、全国的な徳政令の発令を勝ち取った。　**3.** 有力な国人たちが集まって合議制を敷き、守護大名の立ち入りを8年間にわたって禁じた。　**4.** 武家諸法度を無視したとして幕府から改易を命じられ、キリシタンを中心とした大規模な反乱が起きた。

問5 1543年に種子島へ鉄砲が伝来したことは、その後の戦国時代の戦い方や社会にどのような変化をもたらしましたか。最も適切な説明を選んでください。（2024年　大阪公立入試　類似）

1. 足軽による集団戦法が普及し、強力な攻撃を防ぐために城の造りがより堅固になった　**2.** 騎馬武者による一騎打ちが戦いの主流となり、個人の武勇がより重視されるようになった　**3.** 鉄砲の製造に高度な技術が必要だったため、戦国大名同士の争いが一時的に停止した　**4.** 弓矢や刀剣が全く使われなくなり、すべての兵士が鉄砲のみを装備して戦うようになった

問6 1543年に種子島に漂着した船により、日本に初めて鉄砲が伝えられました。当時の種子島の鍛冶職人がその仕組みを学び国産化を進めたといわれる、この武器を日本に伝え、後に長崎などを拠点にキリスト教の布教を伴う貿易を行った国はどこですか。（2016年　長野県公立入試　類似）

1. ポルトガル　**2.** スペイン　**3.** オランダ　**4.** イギリス

問7 武士に関わる法律の歴史について、鎌倉時代に北条泰時が制定した「御成敗式目」、江戸時代に幕府が大名を統制するために制定した「武家諸法度」、そして戦国時代に各大名が領国支配のために制定した法律を順に並べたものとして適切なものはどれですか。（2020年　佐賀公立入試　類似）

1. 御成敗式目 － 分国法 － 武家諸法度　**2.** 分国法 － 御成敗式目 － 武家諸法度　**3.** 御成敗式目 － 武家諸法度 － 分国法　**4.** 武家諸法度 － 分国法 － 御成敗式目

問8 室町時代に足利義満が開始した、大陸との外交や貿易の仕組みについて述べた文として、正しいものはどれですか。（2023年　神奈川県公立入試　類似）

1. 明の皇帝から「日本国王」として認められた義満は、倭寇と正式な貿易船を区別するために「勘合」という札を用いる日明貿易を行った。　**2.** 幕府が発行した「朱印状」を携えた船が、東南アジアの諸港へ出向いて、香料や絹織物などを取引する自由貿易を行った。　**3.** 博多湾を襲撃した元軍を退けた後、元の優れた文化を導入するために、北条氏が中心となって大陸との官民一体の貿易を推進した。　**4.** イエズス会の宣教師であるフランシスコ・ザビエルの布教を保護する条件として、ポルトガル船との間で南蛮貿易を開始した。

答え合わせ・解説

問1	**答え 1** **種子島への鉄砲の伝来**	鎌倉時代の御成敗式目制定や元寇、室町時代の幕府成立や応仁の乱を経て、戦国時代に入った1543年にポルトガル人によって鉄砲が伝えられました。これは時系列において、室町幕府が衰退し戦国大名が台頭する時期にあたります。
問2	**答え 1** **ポルトガル人**	16世紀半ばの1543年、種子島に漂着した船に乗っていたポルトガル人によって鉄砲（火縄銃）がもたらされました。この出来事は、その後の日本の戦術や城郭の構造、さらには社会構造そのものを大きく変える契機となりました。当時の日本は戦国時代であり、新しい武器としての鉄砲は各地の戦国大名の間で急速に普及していきました。
問3	**答え 2** **家臣同士の私的な紛争を抑え、領国内の団結と大名による統治権を強めるため**	戦国大名にとって、家臣同士が私的な理由で争うことは、軍事力の低下や領国の混乱につながる大きなリスクでした。そのため、分国法を通じて「争いごとの解決は大名の裁定に従うべきである」という原則を確立させました。これにより、家臣たちを強力に統制し、領国全体を一丸となって運営する体制（領国支配）を整えようとしたのです。
問4	**答え 1** **門徒たちが独自の政治体制を築き、「百姓の持ちたる国」と呼ばれるような自治を実現した。**	1488年、加賀国では浄土真宗の門徒たちが結束して守護大名を自害に追い込みました。この出来事は、それまでの階級社会において農民や地元の武士が中心となって、約1世紀という長期間にわたり自分たちの手で地域を運営（自治）したという点で、日本の歴史上非常に特異な事例とされています。織田信長によって平定されるまで、この体制は維持されました。
問5	**答え 1** **足軽による集団戦法が普及し、強力な攻撃を防ぐために城の造りがより堅固になった**	鉄砲の伝来と普及は、戦国時代の合戦のあり方を根本から変えました。それまでの騎馬武者中心の戦いから、鉄砲を装備した足軽による組織的な集団戦法へと移行しました。また、鉄砲の威力に対抗するために、石垣を高く積み上げ、厚い壁を持つ堅固な城郭が築かれるようになるなど、建築技術にも大きな影響を与えました。
問6	**答え 1** **ポルトガル**	1543年に種子島へ鉄砲を伝えたのはポルトガル人です。この出来事をきっかけに、日本国内で鉄砲の量産が始まり、戦国時代の戦術が大きく変化しました。また、ポルトガルとの貿易は「南蛮貿易」と呼ばれ、キリスト教の布教と密接に結びついていたことが特徴です。
問7	**答え 1** **御成敗式目 – 分国法 – 武家諸法度**	1232年に鎌倉幕府が定めた御成敗式目は、武家社会における最初の体系的な法律です。その後、戦国時代に各地の大名が分国法を定め、江戸時代に入ると、1615年に徳川秀忠の代で全国の大名を統制するための武家諸法度が制定されました。分国法は、幕府による全国的な法支配が途絶えていた時期に、地域限定で機能した法という位置づけになります。
問8	**答え 1** **明の皇帝から「日本国王」として認められた義満は、倭寇と正式な貿易船を区別するために「勘合」という札を用いる日明貿易を行った。**	室町幕府の3代将軍である足利義満は、明との国交を樹立し、日明貿易（勘合貿易）を始めました。この貿易では、当時沿岸部で活動していた海賊（倭寇）と正式な使節を区別するために、「勘合」と呼ばれる照合用の札が使われたのが大きな特徴です。